

WOMEN IMPACT STUDIO

Judgment as Infrastructure

判断をインフラとして扱う

A White Paper on Treating Judgment as Structure

— 判断を構造として扱うためのホワイトペーパー —

Version 1 | Issued in August 2023

判断をインフラとして扱う

— 判断を構造として扱うためのホワイトペーパー —

Executive Summary

本ペーパーは概念的な枠組みを提示するものであり、行動を指示したり、判断を評価するものではありません。

多くの人は経験を積んでいる。しかし、その経験から生まれた判断は、次の場面で再利用されることがなく消えていく。

このホワイトペーパーは、個人の中で散らかり、語られるだけで終わってきた判断を、**構造として扱うことは可能か**、もし可能なら、**それはどんな形をしているのか**を探るものである。

ここで提示するのは正解ではない。教育プログラムでも、能力開発手法でもない。

判断を「個人の才能」から切り離し、扱える対象物として置き直すための一つの試みである。

1. なぜ判断は消えていくのか

経験は残る。メモにも、記憶にも、語りにもなる。しかし判断は残らない。

判断は多くの場合、

- 成功談
- 失敗談
- 人柄
- センス

として語られ、

どの状況で、何を基準に、何を捨てたのかは記録されない。

結果だけが共有され、構造は共有されない。このとき判断は再利用不可能になる。

2. 判断を能力から切り離す

判断は能力ではない。少なくとも、能力として扱う必要はない。

判断は、

- 状況
- 制約

- 目的
- 比較
- 選択
- 断念

から成る構造物である。構造物であるなら、

- 分解できる
- 配置できる
- 再構成できる

判断を「うまい／下手」で評価する前に、構造として扱えるかどうか問われる。

3. 再利用可能な判断の最小構造

本ペーパーでは、判断を以下の要素で捉える。

- 前提となる状況
- 動かせない制約
- 目指している状態
- 比較された選択肢
- 判断に使われた基準
- 選ばなかった理由

重要なのは、どれを選んだかではなく、

何を基準に捨てたか。

捨てた理由は、その人の判断の輪郭を最もよく表す。

4. 固定してよいもの、毎回考えなくてよいもの

判断の多くは、毎回ゼロから考える必要はない。

- 優先順位
- トレードオフの扱い方
- 「やらない」を決める基準

これらを固定すると、判断は軽くなり、継続可能になる。判断を軽くすることは、思考を浅くすることではない。構造を先に置くことである。

5. この構造があると起きる変化

この構造を使うと、判断は「説明できるもの」になる。説明できる判断は、

- 引き継げる
- 修正できる
- 比較できる

結果として、

- 個人の中で消えない
- 組織の中で属人化しにくい
- 社会の中で循環しうる

ここで初めて、経験は「個人の物語」から**共有可能な資源**になる。

6. 限界について

この構造は、

- 感情を整理しない
- 正解を出さない
- 判断を均質化しない

判断の責任を軽くもしない。ただ、判断を置く場所を作るだけである。

使わなくてもよい。合わなければ捨ててよい。それでも構わない。

7. 今後に向けて

判断が構造として扱われる社会が、どのような変化を生むかは、まだわからない。

本ペーパーは、一つの配置を試しに置いたにすぎない。この配置が、誰かの判断を少しだけ軽くし、消えずに残るなら、それで十分である。